

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652013

研究課題名(和文) 信用危機と革命 ジャック・ネッケルと十八世紀末フランスの政治・経済論の動揺

研究課題名(英文) The Financial Crisis and the Revolution : Jacques Necker and mutations in the political economy in the end of 18th century

研究代表者

王寺 賢太 (Ohji, Kenta)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：90402809

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果としては、ネッケルのフランス・インド会社再建策(1763～1770)に焦点を当て、レナルの『両インド史』(1770/1774/1780の三版)との関係を明らかにした一連の業績が特筆される。この研究によって、代議制・公論・信用(公債)の三位一体をもとにフランス王国の政治・財政改革を目論んだ第一次財務総長官期のネッケルの基本構想と、王国財政再建のために土地所有者の政治的代表制の設立をいっそうラディカルに求め、フランス王国の身分制の解体を求めた1780年代初頭のディドロの政治思想の急進化が明らかになった。このディドロ晩年の政治思想は、啓蒙から革命への一定の連続性を明かすものである。

研究成果の概要(英文)：A series of articles which demonstrates close relations between Necker's reform of the French Company of India (1763-1770) and Raynal's "Histoire des deux Indes" (three successive editions in 1770, 1774, 1780) should be noticed as a principal fruit of this research : in this regards, we have also shown that the reform of French monarchy proposed by Necker during his first ministry (1776-1781) has been also based on the trinity of Political representation-Public Opinion-Public Credit, as it was the case in the reform of the Compagny of India, and that Diderot, though close to Necker and Raynal at the end of the 1770s, proclaims more radically the establishment of the political representation of the land-owners in the perspective of the restauration of public finance in France, without hesitating before the abolishment of the society of order : in our view, this Diderot's case clearly indicates the way that leads from the Enlightenment to the French Revolution.

研究分野：思想史

科研費の分科・細目：2904

キーワード：啓蒙思想 フランス革命 財政 公債 代議制 公論 18世紀ヨーロッパ国際関係

1. 研究開始当初の背景

18 世紀フランスのいわゆる啓蒙思想研究においては、1990 年代より政治思想への関心の高まりが見られたが、モンテスキュー、ルソーなどを中心とするその成果は、いずれも思想家研究にとどまり、啓蒙の政治思想と世紀末のフランス革命の関係を明らかにしようとする関心は希薄であった。われわれの研究は、18 世紀フランスの政治思想と財政問題の結びつきに着目した Michael Sonencher, *Before the Deluge* を踏まえつつ、レナル/ディドロの『両インド史』(1770/1774/1780) を 18 世紀末のフランスで生まれたヨーロッパ近代に対する批判的歴史としてとらえる研究代表者の研究の延長線上に構想された。そこで特に注目されたのが、ジュネーヴ出身の銀行家でありながら、七年戦争以後のフランスでまずインド会社改革者として、ついで財務総長官(1776~1781/1788~1789、1789~1790)として政治の舞台に立ったジャック・ネッケルの思想・政策と『両インド史』の著者たちの関係であった。

2. 研究の目的

啓蒙と革命の関係は、伝統的にフランス 18 世紀思想研究の関心を引いてきたが、そこではフランス革命の功罪をめぐる政治的な価値判断をもとに、そこから遡って啓蒙思想に革命の先駆となるような「人民主権」「国民主権」の構想を見いだすのがもっぱらであり、啓蒙の哲学者たちの政治的・哲学的主張が、どのような現実の政治過程を背景に提出され、何を追求するものであったかが検討されることは少なかった。本研究では、ネッケル・レナル・ディドロといった政治化・政治的著作家をとりあげ、とくに七年戦争後の通商論と財政論を中心に、政治的代表制や公論の重要性を説く彼らの政治思想を理解することを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、ネッケル・レナル・ディドロの著作を中心に、そこに現れた政策提言や政治的理想が、同時代の他の論者たち(たとえば、「商業の自由」を求めるフィジオクラットや、テュルゴ、モルレを筆頭とするグルネーの弟子たち)といかなる論争的関係を持ち、そしていかなる政治問題に解決をもたらそうとするものであったかに焦点を当てる。その際、レナル/ディドロの『両インド史』に関しては、三つの版の異同に細心の注意を払い、それぞれのヴァージョンの源泉資料などを精査しながら、政治的文脈の再構成を図る。

4. 研究成果

本研究の成果としては、ネッケルのフランス・インド改革とレナルの『両インド史』諸版(1770)の密接な関係を明らかにした 2011 年の論文 « Raynal, Necker et la Compagnie des Indes »(in G. Bancarel (ed.), Raynal et

ses reseaux, Paris, Champion, 2011)が筆頭に挙げられる。『両インド史』が本来持っていた政治経済学的な議論への介入と、同時代の一般公衆へのインド会社債購入のよびかけとしての性格を明らかにしたこの論文は、学界で高い評価を受け、複数の好意的な論評の対象となっている。

また、この論文では、1763 年から 1770 年初頭のネッケル・レナルの関係にとどまらず、政治的代表制と公論への訴えを(財政的な意味での)「信用再建」に結びつけようとする企図が、1776 年から 1781 年の第一次財務総長官担当期のネッケルに受け継がれ、返送されていることも明らかにされた。さらに、『両インド史』の第三版におけるディドロの寄稿を検討することによって、この哲学者が、表立ってネッケルを支持していたにもかかわらず、公債の乱発によってアメリカ独立戦争期のフランス王国の財政をやりくりしようとしたネッケルの施策の行く末について懐疑を持ち続け、むしろ土地所有者の政治的代表制と聖職者・貴族の免税特権の剥奪に基づく、より抜本的な王国の政治=財政改革を目指していたことも明らかになった。晩年のディドロにおいて、フランス革命を先駆ける「国民は血の海の中でしか再生しない」という言葉は、以上のような抜本的な改革策の実行不可能性の意識とともに生じたのである。

以上の成果は、2012 年に研究代表者がパリ西大学に提出した博士論文『Malaise dans l'Europe moderne: Aux origines de l'Histoire des deux Indes de Guillaume-Thomas Raynal』(1201 頁)の一部として組み込まれた。レナルの初期から 1780 年代初頭までの「近代ヨーロッパ」についての批判的歴史の延長線上に『両インド史』を位置づけるこの大部の仕事は、きわめて高い評価を受け、公刊が期待されている。また、この成果を受けて、研究代表者は 2013 年 11 月以来、スイスの出版社 Centre international d'étude du 18^e siècle で編纂されている『両インド史』批評校訂版の編纂委員に名を連ねることになった。

他に、本研究課題に密接に関わる研究成果としては、ディドロ生誕 300 周年にあたる 2013 年に日本語・フランス語で発表された、後期ディドロの「一般意志」論についての研究が挙げられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

□□□王寺賢太「一般意志の彼方へー「諸意志の協調」とディドロ晩年の政治的思考」『思想』no. 1076 (2013 年 12 月) pp. 49-74.

- 2) 王寺賢太 「Multitude/Solitude—マキアヴェッリをめぐるネグリ、ポーコック、アルチュセール」 『現代思想』 41 巻 9 号 (2013 年 7 月) pp. 129-143.
- 3) 王寺賢太 「No hay caminos, hay que caminar—日本の「第三の道」への疑問」、『情況別冊』 「思想・理論篇」 第 1 号 (2012 年 12 月) pp. 45-75.
- 4) 王寺賢太 「起源の二重化—アルチュセールのルソー『人間不平等起源論』読解(一九七二)」、『現代思想』 vol. 40-13, 2012 年 10 月号 pp. 86-101.
- 5) 王寺賢太 「Corps の所在—大橋完太郎『デイドロの唯物論』書評」、『思想』 2012 年 7 月号 (1059 号) pp. 109-121.

他に博士論文として、

Kenta Ohji, *Malaise dans l'Europe moderne : Aux origines de l'Histoire des deux Indes* de Guillaume-Thomas Raynal, 2 vol., 1201 p. (2012 年 7 月パリ西大学で審査 : 審査員 Ann Thomson, Georges Benrekassa, Cecil P. Courtney, Gianluigi Goggi, Marie-Leca Tsiomis).

〔学会発表〕(計 7 件)

- 1) 王寺賢太 「「一般意志」の構成：デイドロ晩年の政治的考察における代議制・公論・歴史」於「来るべき一般意志」シンポジウム、立教大学文学部 (2014 年 3 月 15 日)
- 2) 王寺賢太 「Italiam, Italiam : 『法の精神』における封建法の歴史と近代君主政の系譜学」於「生命統治時代の〈オイコス〉再考とポスト・グローバル世界像の研究」研究会、東京外国語大学 (2014 年 1 月 21 日)
- 3) Kenta Ohji, « Par-dela la volonte generale : le concert de volentes selon le dernier Diderot », 「Diderot et la politique, aujourd'hui」シンポジウム、パリ西大学 (2013 年 11 月 7 日)
- 4) 王寺賢太 「消滅する立法者：モンテスキューとルソーにおける歴史と政治」於「18 世紀における〈戦争〉表象と〈平和〉表象の研究」科研グループ研究会「〈消滅する媒介者〉をめぐって」、北海道大学文学研究科 (2012 年 9 月 23 日)
- 5) 王寺賢太 「国民は血の海のなかでしか再生しない：デイドロと政治的雄弁の問題」於フ

ランス語フランス文学会春季大会 (東京大学文学部) 「文学と (複数の) 政治—黙秘・主体・デモクラシー」ワークショップ (2012 年 6 月 3 日)

6) 「代表制・公論・信用—レナル/ネッケルによるインド会社とフランス王国改革」、北海道大学法学部政治研究会 (2012 年 1 月 19 日)

7) Kenta Ohji, « Guerres, discipline et patriotisme : la genealogie de l'Europe moderne selon l'*Histoire des Guerres* de Raynal », Congress of the International Society for Eighteenth Century Studies, Graz University (2011 年 7 月 29 日)

〔図書〕(計 3 件)

1) ブリュノ・ベルナルディ (王寺賢太訳・解題) 「ジャン・ドブリとルソー：法律、習俗、そして人民の「暗黙の教育」」、同 (三浦信孝編) 『ルソーの政治哲学』、勁草書房、2014、第 5 章。

2) Kenta Ohji, « Quand un mEmorialiste entre dans l'histoire : à propos de la réception des *Mémoires* du cardinal de Retz chez quelques historiens français du XVIIIe siècle », dans Shojiro Kuwase, Makoto Masuda et Jean-Christophe Sampierri (ed.), *Les destinataires du moi : alterites de l'autobiographie*, Dijon, Editions universitaires de Dijon, 2012, pp. 49-61.

3) Kenta Ohji, « Raynal, Necker et la Compagnie des Indes : Quelques aspects inconnus de la genese et de l'evolution de l'*Histoire des deux Indes* », dans Gilles Bancarel (ed.), *Raynal et ses reseaux*, 2011, pp.105-181.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
(王寺賢太)

研究者番号：90402809

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：